

令和5年度 第1回（第22回） 外部アドバイザー委員会報告書

1 開催日時 令和5年6月2日（金） 12時50分～13時50分

2 開催場所 倉敷市立短期大学 大会議室

3 出席者

（1）委 員 出席者 6名

尾崎委員、津田委員、池葉須委員、海本委員、江島委員、大江委員

欠席者 1名 山本委員

（2）教職員 出席 9名

安達学長、小久保保育学科長、岩崎服飾美術学科長、大原図書館長、

家守事務局長、岡事務局長代理、眞次学生部長、松内学生部主幹、

佐々木会計年度任用職員

（3）オブザーバー 出席 1名

石田企画経営室長

4 次第

（1）安達学長挨拶

（2）報告・審議事項

（3）意見交換

（4）その他

○ 安達学長挨拶

令和5年度の重点課題と取組について6つの項目の説明があった。短大移転を機に教育力の向上、志願者の確保、社会連携・社会貢献の改善に繋がるよう実現していきたい。児島商工会議所としっかり連携をとり教育の向上と地域貢献できたらと思っている。1年のテーマとしては認証評価がある。今年資料作成し来年、大学基準協会の認定を受ける。学生支援のハラスメント防止については今問題になっているので、しっかり仕組みをつくっていききたい。

○ 学生部長、両学科長、事務局長、図書館長より本年度の取り組み、目標等について説明あり。

○ 家守事務局長より移転の現状について説明あり。

児島地区公共施設複合化基本構想案の策定後、市民に対して実施したパブリックコメントの要約版の資料に基づき説明あり。児島公園の一部を活用との方針を出している。移転場所について児島公園、海技大学校跡地、児島文化センター跡地の3カ所が候補にあがったが、児島駅前、児島ファッションセンターの近くで一番有効活用できる児島公園を今のところ選択肢にあげているが、まだ確定ではない。今後市民に説明をして最終決定となる。令和9年度の工事完了で令和10年4月より新しい学舎となる予定。

5 外部アドバイザー意見

意見①

以前受けた、認証評価のことを思い出した。資料作成は大変であるが、教職員が協力して、できるだけ早めに作成して欲しい。

保育学科の本科・専攻科含め公務員合格者が1人は少ないのでは。以前は合格者がもう少し多かった。服飾美術学科については、市立短大は専門学校ではないので資格は不要と思われるが、学生にとって就職活動の際に資格は重要なポイントになるので、もっと充実していくことが必要では。

短期大学移転について、令和9年度建設工事完了とのことであるが、受験生確保という意味で、早く移転先が決まり速やかに移転したほうが良い。

意見②

短大移転についてはかなり具体的になり、これを機に倉敷市立短期大学の学生について真面目さや雰囲気の良い、レベルの高さを多くの方々に知って欲しい。

就職活動について、マスコミ情報では、すでに70パーセントの学生が内定を受けているとのこと。保育学科は、ほとんどの学生が保育園や施設に就職するので、就職に対しては有利であると聞いた。

また、ハラスメントが身近な問題となっており、全国的に教員間でもハラスメントが起こっている事例もあると聞いた。そのためカウンセラーの導入を検討してみてはいかかが。

意見③

岡山、倉敷は4年生大学が大変多く、それぞれ独自のカラーを出してPRし学生確保に努めている。保育の素晴らしさを伝えようとしても、核家族化の影響で小さい子供と接することが少ないこともあるので、高校生を対象に出前講座で保育の楽しさを知って欲しい。コロナの前は学生が保育実習へ行ったり、地域の園児を呼んで人形劇をしたりしていたので、ぜひ復活して頂きたい。子どもも楽しみ、学生にも活きた保育や教育ができるのは、子どもの反応を見る実践の場でないかと思われる。高校生の授業に組み込んで教育、保育の素晴らしさをPRできたらと思っている。

今、若者はインスタやラインとかを見る機会が多いので、それらをPRに取り入

れたらどうか。

意見④

進路指導について、市立短期大学を卒業した後のことが気になる。保育学科に進むと保育士資格を取得し、直接その資格が活かされる職につく魅力があるが、服飾美術学科については、高校生が服を制作するとか学ぶことが少ないので、どのような就職先があるのか高校生にはわかりにくい。そのため学生募集にも関わるのではないか。こういうところに就職できますなどのシナリオを示して欲しい。専門学校とは違う、市立短大だからこその就職できるプラス面をだして、しっかり対応して欲しい。

移転については、市立短期大学が移転後、倉敷翔南高校が跡地を利用すると聞いているが、まだ正式な話は聞いていない。教育委員会としっかり連携して頂き、情報を教えて欲しい。高校の授業では市立短期大学の先生に、出前授業の講師としてお越しいただき感謝している。高校生がキャリアの面でも大学の先生の授業に触れるということは有難いことなので、ぜひとも引き続きお願いしたい。